

看護部も、経験豊富なエキスパートを迎えました。



「オーダーメイド看護」を実践中です。

運動器疾患は同じ疾患でも症状や範囲が異なり、これがADL(日常生活動作)に大きく影響します。それだけに、患者さまの身近にいる私たち看護師が一緒になってどうしたら持てる力を活かせるのかを考え、可能なリハビリを促したりしていくことが大切です。いわば、「オーダー

メイド看護」です。治療だけを重視するのではなく、その人の生活や人生、家族さまにも焦点を当て日々の看護実践をしています。そして、「整形外科領域の看護が楽しい!」そんな想いのスタッフを増やしています。

ノースウイング6階病棟
日本運動器看護学会認定運動器看護師 泉 あい



患者さんとの信頼関係を第一に考えています。

80歳超の患者さまから足腰の力が弱ってきたと相談されたことがあります。幸いにもリウマチに対しても内服薬でコントロールできていましたので、簡単な筋力アップ体操を指導させていただきました。その後の受診日に「テレビを見ながらでもできるから、ちゃんと続けているよ。」と笑顔で

ご報告くださいました。患者さまと積極的にコミュニケーションを取り信頼関係を築くことは何よりも大切です。納得いくまで話し合える診察環境、雰囲気づくりには留意しています。

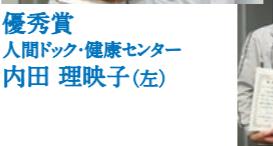
リウマチセンター
(財)日本リウマチ財団 登録リウマチケア看護師 岩田 典子

まつなし News

第11回 QCサークル大会、139名が参加!



日頃の業務改善を発表する年1回のこの大会、今年は精鋭5チームが登場しました。中部品質管理協会の杉山哲朗顧問を始め、関中央



準優秀賞
介護老人保健施設
高橋 勇太(左)
竹内 友唯(右)



優秀賞
人間ドック・健康センター
内田 理映子(左)

講演会のお知らせ

第14回 濃尾医療連携セミナー

- 【日時】 2015年4月25日(土) 16:00~
- 【場所】 グランヴェール岐山
- 【テーマ】 「地域包括ケアシステムにおける病院の役割について」
- 【講師】 社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院理事長 神野 正博先生

医療の質をさらに高める
多彩な顔ぶれ。

完全電子カルテ化に始まり、急性期医療に特化した北館の完成、障がい者病棟の誕生(4月)と、この1年で松波総合病院は大きく飛躍を果たしました。なかでも注目すべきは、新しく仲間入りしたエキスパートのみなさんです。この1年を振り返りつつ、医療への熱い思いをそれぞれ語っていただきました。

循環器内科 | Cardiovascular medicine



心臓病の分野において、ベストの治療法をお届けします。

松波総合病院循環器内科のみなさんと働けるようになって、ちょうど1年がたちました。当院は大変忙しい急性期病院ですが医師・スタッフは、持ち前のやさしさと頑張りで日々、臨床に取り組んでいます。私自身、この1年なんとかやってこられたのは、みなさんのおかげです。ありがとうございます。

日本の医療は今、世界のどの国も経験したことのない高齢化社会を迎えてます。多くの高齢者は、いろいろな検査や治療を受けるために十分な体力がありません。またほとんどの高齢者は複数の病気を抱えています。

心臓病治療の分野でも早くから負担の少ないカテーテル治療が導入されてきましたが、手術に比べれば不完全な点も多くメリットばかりではありません。今年度から導入されたハイブリッド手術室はカテーテル治療と手術治療がコンビを組んで患者さんにとってベストの治療法を行なう場所であり、高齢者や様々な合併症を持つ患者さんにとって福音となります。当院では様々な診療科がチームを組んで総合的な診療を行なっています。これからもどうかよろしくお願いします。

循環器内科
心臓疾患センター長 上野 勝己

優秀な2名の先生を迎へ、さらなる発展へ。

昨年春に上野先生と北村先生の二人が加わり、循環器内科は総勢8人になりました。上野先生は心臓カテーテル治療の分野で日本のトップクラスの経験と技術を持っています。

北村先生は名大や東大医科研での研究歴と豊富な臨床経験を併せ持ち、

副院長
循環器内科

めたのひ
森田 則彦





『一年が経ちました』新たに加わったエキスパートが当院を語る

『医療の質を高め、地域を守る。』ドクター陣からのメッセージ。

循環器内科 | Cardiovascular medicine

希望に沿った最適な検査・治療を行っていきたい。

当院に赴任して早1年がたちました。病院の印象として、診療科内はもとより、他科・他職種との気軽に相談できる雰囲気があると感じました。それもあり、病院毎に異なるシステムにも比較的短時間で慣れることが出来ました。

個々の患者さんに対し、どのような選択が良いのかを考えたうえで、患者さんと御家族に、病気や検査・治療法を分かり易く説明し、希望に沿った最適な検査・治療を行っていきたいと思います。

循環器内科
副部長 北村 優也

整形脊椎外科 | Orthopedics

脊椎術後の患者さんからの紹介が増えています。

松波総合病院に赴任して1年が経過しました。赴任当初は脊椎疾患の患者さんが当院を選んでいただけるか不安もありましたが、近隣の先生方から多くの患者さんをご紹介いただけたようになりました。脊椎手術症例数は月平均6・7件ほどでまだまだ少ないですが毎月少しずつ増えており、手術まで1か月程度お待ちいただいている患者さんは

手術後も症状が残りすっきりしないこともあります、脊椎術後患者さんからの紹介あるいはクチコミで受診される患者さんが大変増えており当院での治療結果に概ね満足いただいているものと思っております。くび、腰の痛み、神経痛でお困りの際はぜひご相談ください。

整形脊椎外科部長・ひきわせ
脊椎センター長 日置 晴



リウマチセンター | Rheumatism center

患者さんとの対話を大切に治療に当たりたい。

■リウマチ治療最前線

簡単に言うと関節リウマチ(RA)治療の最前線と言うのは、RAを早期に診断し、早期から抗リウマチ薬を使用して、疾患活動性をコントロールすることに尽きます。最近では有効な内服の抗リウマチ薬や点滴、皮下注射で投与する生物学的製剤が使用可能となりRAの治療成績は劇的に向上しました。当然、当院ではすべての薬物療法は施行可能。近年、関節炎の評価に関節超音波検査が盛んに使用されています。活動性のある関節炎があたかも燃えているように評価できます。当センターの外来にも関節超音波機器を配備し、関節炎評価に使用しています。

■松波総合病院の印象

大学病院と比較すると私立病院であるため、良い面では小回りが利きます。方針決定等が速やかに行なうことが可能です。一方、公立病院ではないので

病院の評判を落とさないようにいつも注意している必要性はあります。大学病院は最後の砦という患者意識がありますが、最近では大学病院でなければできないという治療はなくなりました。大学とか一般病院と言う区別ではなく、診てている医師がどうかで評価される時代になったと思います。松波総合病院に移ってからは患者さんと診察室で話ができる時間が少し多くなりました。

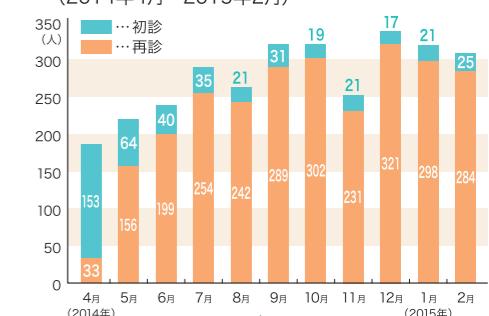
■患者さんへのメッセージ

手指をはじめとした関節のこわばり、腫脹、疼痛が出現したら一度診察をお越しください。RAは治らない病気ではなくなりました。また、最近、脊椎関節炎と言う疾患名が整理されました。強直性脊椎炎、乾癐性関節炎、線維筋痛症など、原因不明の腰背部痛や関節痛が持続する場合は一度リウマチセンターにお立ち寄りください。

リウマチセンター長 佐藤 正夫

2014年4月からリウマチセンターを立ち上げました。

■リウマチセンターの患者数推移
(2014年4月～2015年2月)



多い月は1か月に約300人以診察しています

『一年が経ちました』松波総合病院の未来を担っていく、若き研修医たち。



片野 拓馬
入職時よりは、病院の中のいろいろな物事、場所、名前、人がわかるようになったと思います。まだまだ未熟で迷惑をおかけしていますがよろしくお願いします。

乗原 吉範
少しづつ病院に慣れてきて、だんだんと自分の思うように動けるようになったと思います。

中村 桃子
少しづつですが、仕事を率先して行動できるようになったと思います。あと2ヶ月お願いします。

増田 晃夫
周りの人に教えて頂く事が多く、自分も学んだ知識を共有できたらなと思う事が多かったです。

森 珠美
初めはカルテの使い方やオーダーの仕方や薬の使い方もわからませんでしたが、少しづつ病院にもなれてきて、手技もひとつずつできることができました。これからも精進していきますので1年よろしくお願いします。

山岸 靖昌
入職直後と比べ、落ち着いて患者さんはなしを聞けるようになりました。

山田 尊大
疾患の診断や治療、手技などを学び、医師として成長できていると実感しています。

研修医 | Resident